

# 喜納昌吉

## すべての武器を楽器に！

戦争と武器が人類にまわりついて離れないなかで、どこよりも戦争によって苦しめられてきた沖縄から、「すべての武器を楽器に」と呼びかける、希望にあふれた言葉が聞こえてきた。

ミュージシャン



——長野に行っていたそうですね。

長野県の諏訪にある神社を見にいつてきたんです。7年に一回、御柱大祭という大きな祭りの開かれる場所です。その祭りの構造を知りたかったんだよね。

### 「祭り」のもつエネルギー

あの祭りでは毎回、人が死ぬでしょう。死ぬことを賞賛するのではないけれど、祭りで死ぬのと戦争で死ぬのでは、やはり違う死であるということを確認めたかったんだよね。

毎回あれだけ死者の出る祭りだから、本来であれば警察の取り締まりも出てくるのかもしれないけど、実際にはそうならない。本質的にいって、祭りは治外法権なんです。戦争も治外法権だけど、祭りも治外法権なんです。我々はこういう、祭りの持っている治外法権のパワーを持たなければいけない時期に来ていると思う。戦争の治外法権ではなくて、人びとが喜ぶような、覚醒した祭りの治外法権のパワーを出していかないといいかね。戦争は一部の利権集団と権力集団にエネルギーを持っていかれるけど、祭りはみんなにエネルギーを与える。人間が祭りのエネルギーで燃焼していけるようにしているんです。

にしていけることが、本当の平和の創造なのではないかと思う。  
祭りというのは、戦争以上に生きた心地がするんです。戦争よりも、祭りにおいて、よほど生命は炸裂する。そして祭りにおける生命の炸裂には未来がある。だから私は戦争よりも祭りを、といっているわけね。

——東京にも、デモ行進などでエイサーの格好をして「ええじゃないか」とパフオーマンズしている方々がいますね。

だから、戦争よりも元気のある平和運動をしなければいけないんだよ。シュプレヒコールで「粉碎！」とか言う人たちもいるでしょ、拳を振りあげて。平和を訴えながら、自分の中には平和がないとダメだと思う。恨みと怨念でもって平和運動をしたら駄目なんじゃないかと思う。だから、まだ平和運動は進化していないわけですよ。熟していないのよね。

党利党略の平和運動では、人を惹きつけることはできない。死んだ平和運動よりは生きた心地のする戦争を選択する若い人が出てきてしまう。だから小林よしのりが幅を利かせるような世のなかになつてしまふわけね。それは人間の本能のようなものですよ。

細胞のなかで眠っている力を覚醒させるためには、細胞を半殺しの目に遭わせることです。そうすると通常は眠っている細胞の力が息を吹き返すんです。だから、眠るような平和運動よりは、細胞の生き返る心地のする戦争を選んでしまふ。しかし考えてみなさいよ。半殺しで済

むならいい。今の戦争は半殺しではすまない。地球を何回も破壊できる核兵器を持ち、すべての人類を10万回も皆殺しにできる細菌兵器を持っている。こんなバカげたことをどうして人類はするのか。これを文明の無意識といふのですよ。1回滅ぼせる量を持つだけでは足りなくて、何万回も自分たちを絶滅させられるだけの武器を蓄えてしまふ。

かつてある哲学者がアインシュタインに第3次世界大戦はありますかと質問したそうです。しばし黙ってから、アインシュタインは静かに「第4次世界大戦はないだろう」と答えたそうです。つまり、次の世界大戦が起これば人類は滅亡するから、その次の戦争は起きないというわけ。今度の戦争では半殺しではすまない。完全に死んでしまふわけさ。

こういう古い文明は変えなければいけない。文明に覚醒を与えないといけないのよ。そうやって、輝く惑星文明を作らないといけないと思っっているんです。

地球こそ人類の聖地です。エルサレムだとかメッカだとか、伊勢神宮だとか、そういう各地の小さな地域が聖地だといふのではなく、地球そのものが生命の聖地なんだ。我々は宇宙に開かれたグローバルリズムを持たないといけないのですよ。しかし、今の軍産複合体に支配されたグローバルバリエーションというのは、地球と人類を一つにまとめていくかもしれないけれども、地球全体をファシズムで覆ってしまう可能性があるわけね。彼らは抑圧すること一つにしようとする。我々

は開かれていくことで一つになっていく。

——そのなかで戦争をする古い文明は消えていくということですか。

戦争する文明はガン細胞のようなものですよ。宿主である私をむさぼって、最終的には私の死とともにガン細胞も死んでしまふ。文明はまさにそういう時代に入っている。地球が死ねば人類も生きていくことはできないんですよ。

諸悪の根源は国境です。

温暖化も国境を越えるし、熱帯雨林の破壊も、原発被害も、あらゆるものが国境を越えている。電波だって動物だって国境を越えていくわけね。進化の頂点に立つ人間だけが国境に縛られて、他の生命も道連れにして戦争をしているわけさ。諸悪の根源である国境をなくしていく運動をしないとだめです。今は、病気が地球単位なのに、治療を国家単位でやっているわけだから。

### 植民地化される沖縄

今は半植民地、半独立意識のなかに沖縄は生きていっているんですよ。

最近、中国の活動家が尖閣列島に上陸したといつて問題になっているけど、沖縄から言えば、尖閣列島は中国のもので日本のものでなく、沖縄のものなんです。沖縄でそう考えるということとは、これは独立意識だといえます。

半分は植民地意識、半分は独立意識のなかに沖縄はいる。これをわかってください。そういう意識のなかで沖縄は生き

ているんです。

沖縄で知事選挙がある年には、紅白歌合戦へ沖縄から4、5名は出るようになっていっているんですよ。若い連中が平和運動に行かないよう、その目をそらすためにやっているんじゃないかと思うね。

日本政府の沖縄に対する姿勢というのは露骨なものです。大田昌秀知事のおきには国から沖縄へ、これまでにない多額の予算がついたんです。ところが、その国からのカネは、内閣府の出先機関である総合事務局へとまずは流れる。都道府県にはそれぞれの省庁の出先機関があるでしょう。ただ、沖縄だけが何故か、省庁の出先機関がこの総合事務局にまともめられているんですよ。つまり、国からの予算はここで分配される。なんでそんなことをするのかといえは、「競争能力のない沖縄を守るため」だと言う。つまりは、何があっても革新運動の側にはお金が渡らないように、受益者団体を作つて、彼らが自分たちの言いなりになるように予算を利用する。小遣い程度は限られた受益者団体に、うまみはすべてヒモのついた県外の業者に持つて行かれるのが、県内企業の実情だよ。だから、沖縄は植民地なんだ。

露骨でしょう。そういうことを、本土の文化人や運動家たちは見落としてきたわけさ。正義の存在でありたい彼らは、アメリカ帝国主義を攻撃するのと同じ論理で、自分たちが日本帝国主義だと言われるのが耐えられないんだろうね。沖縄と対する時、日本は帝国主義ではないの